

乳腺外科

初期研修は乳癌の臨床生物学を理解し、臨床の場において応用できる知識と技量の習得を目的とする。

■ 1年次の研修目標

病棟での患者診療を通して全科に共通する基本的な医療面接、身体診察に加え、外科診療の基本手技を習得する。さらにコメディカルとの協調により信頼関係を築き、幅広い人間関係を構築する。

- 問診によって患者の主訴、現病歴、既往歴、家族歴を聴取し、カルテに記載できる。
- 乳癌の疫学を理解したうえで、初潮年齢、閉経年齢、妊娠・出産回数、乳癌・卵巣癌の既往やその家族歴の有無、ホルモン補充療法の有無などをもれなく聴取することができる。
- 理学所見によって患者の全身状態を把握することができる。
- 乳癌診療では触診によって腫瘍の形状、大きさ、硬さ、乳頭までの距離、辺縁、固定や皮膚所見の有無、リンパ節転移の有無などを記載できる。
- 一般検査や画像診断の選択と順序性を判断して的確にオーダーができる。
- 消毒、抗菌剤の使用、清潔操作時の感染管理について理解し行うことができる。
- 創部・ドレーンの管理ができる。
- 手術器材を理解し、これらの基本操作ができる。
- 緊急処置に際しては、チームの一員として役割をはたすことができる。
- 退院サマリーを期間内にまとめることができる。
- 乳癌取り扱い規約、乳癌診療ガイドラインを理解することが出来る。

■ 2年次の研修目標

外科の基本診療にくわえ乳腺外科の専門性をみずえた診療技能を習得する。

- 乳腺領域の解剖を理解している。
- マンモグラフィーの読影法ならびに所見用語を理解している。
- 超音波検査の基本的な検査手技ならびに所見用語を理解している。
- MRまたはCTの読影ができる。
- 局所麻酔を行い、穿刺細胞診や針生検・マンモトーム生検の補助ができる。
- 病理組織診断の結果を理解している。
- 乳癌の診断に必要な検査を系統的に行える。
- 外科手技の基本である剥離、止血操作が行える。
- 乳癌取り扱い規約、乳癌診療ガイドラインを理解することが出来る。

■ 研修が推奨される診療科

2年次の研修では、乳癌の診断を系統的に行えること、各検査の補助ができることを最低限の目標とする。乳癌の診断には視触診や画像診断にくわえ、病理診断の知識も要求される。また、乳腺専門医の取得には外科専門医の取得を見据えたローテーションが必要となる。

- ✚ 麻酔科・ICU
- ✚ 消化管外科
- ✚ 肝胆膵・移植外科
- ✚ 形成外科
- ✚ 放射線科（診断科、治療科）
- ✚ 病理診断科